

## 全国の舟板建築の分布状況と建築特性に関する研究

### Study on the distribution and building characteristics of boat board buildings nationwide

○高橋優太<sup>1</sup>, 望月柚<sup>1</sup>, 菅原遼<sup>2</sup>

Yuuta Takahashi<sup>1</sup>, \*Yu Motizuki<sup>1</sup>, Ryo Sugahara<sup>2</sup>

**Abstract:** A boat board building is a building that is used for walls and fences by dismantling a boat. There are 52 areas with boat boards nationwide. Although research on boathouses and boat transportation has been accumulated, the current state of boat boards has not been clarified because no knowledge has been found on boat boards used as building materials. In this survey, we conducted a web survey targeting the whole country and extracted 52 locations. It was found that the local governments that recognize it do not have materials related to boat boards and boat transportation, but use the building materials of boats used in the Edo period for walls and fences.

#### 1. はじめに

風土性や民族性等の地域固有の歴史的文脈に基づき建設されてきた建築物が地域資源の要素として認識され始めた昨今、地域を支えてきた水文化から形成された建築物についても再評価されてきている。特に、不要化した木造船の廃材を建築部材として再利用した建築物（以下、舟板建築と示す）は、舟板を継ぎ接ぎした様相や規則的に空いた舟釘の痕跡から独特な建築物の外観や集落景観を生み出している（Photo.1）。しかし、各地の舟板建築は、老朽化や所有管理の継承の難しさ等に伴い解体・撤去が進んできており、舟板建築の全国的な分布状況や建築特性、地域の水文化との関連性を明らかにすることは喫緊の課題といえる。

そこで本稿では、全国の舟板建築の分布状況を整理した上で、舟板建築の建物用途、舟板の使用部位、文化財の指定状況等を把握することを目的とする。

#### 2. 調査概要

Table.1 に調査概要を示す。本調査では、「舟板」や「舟板塀」等のキーワードを用いてWEB調査を行い、舟板を用いた建築物や外塀の事例収集を行い、公開されている舟板建築に関する情報、写真を整理した。次いで、舟板建築を確認できた地域の自治体に対して電話によるヒアリング調査を実施し、建物用途や文化財指定の有無、舟板建築の認識の有無等を確認した。

#### 3. 調査結果

##### 3.1 全国の舟板建築の分布状況

Figure.1 に全国の舟板建築の分布状況を示す。調査の結果、舟板建築は全国52ヶ所で確認でき、大阪府が



Photo.1 Nagahama City Boat Board Architecture

Table.1 Survey outline

項目	概要
調査対象	舟板建築のある地域52か所
調査方法	WEB調査, ヒアリング調査
調査項目	舟板建築の認知, 資料の有無, 建物用途, 使用部位
調査期間	2021年4月~2021年8月



Figure.1 Distribution of boat board buildings nationwide

1：日大理工・学部・海建、2：日大理工・教員・海建

Table.2 Usage and recognition status of buildings using boat board construction

No.	所在地	建物用途			使用用途		文化財指定	認知状況	特徴	No.	所在地	建物用途			使用用途		文化財指定	認知状況	特徴
		民家	蔵	塀	腰板・腰壁	外塀・外壁						民家	蔵	塀	腰板・腰壁	外塀・外壁			
1	新潟県佐渡市宿根木地区	●			●	●	●	●	北前船の船主や船員、船大工等の廻船業の関係者が居住していた集落	27	大阪府東大阪市若江岩田	●			●	●	●	●	—
2	石川県金沢市金沢市				●	●	●	●	—	28	大阪府東大阪市中河内群		●			●	●	●	川舟だけでなく、海で使用されていた船の船材も使用されていた
3	石川県加賀市橋立町				●	●			橋立町は、かつて日本一裕福な町と呼ばれ、42隻の北前船を抱えた北前船主の館群	29	大阪府八尾市		●	●				●	—
4	千葉県我孫子市	●				●			—	30	大阪府八尾市		●	●				●	—
5	埼玉県鴻巣市				●	●			—	31	大阪府八尾市	●			●			●	—
6	静岡県掛川市三熊野神社		●			●			—	32	大阪府藤井寺市	●				●		●	廃船になった田舟の底板を再利用したもの
7	愛知県東浦町石浜芦間				●	●			—	33	大阪府吹田市山田東	●				●		●	—
8	愛知県犬山市内山				●	●			—	34	大阪府吹田市南高浜町	●				●		●	—
9	岐阜県大垣市丸の内				●	●			旧大垣藩家老戸田鏡之助の旧邸は現在、郷土館の施設として保存されている	35	大阪府高田林市寺内町	●			●			●	—
10	滋賀県彦根市中蔵				●	●			塀の柱に直接舟板を貼り付ける形式にて使用	36	兵庫県高砂市高砂町	●			●	●	●	●	大正期の鉄道開設に伴い消失した高瀬舟の廃材を活用
11	滋賀県彦根市葛籠町				●	●			舟板の斜めの切断面を残した状態で民間の腰壁に再利用	37	兵庫県三木市府内町				●			●	—
12	滋賀県彦根市高宮宿	●				●			—	38	岡山県岡山市北区後楽園	●							昔、岡山城と後楽園間に舟が往来しており、その舟板をお茶屋の部材として使用
13	滋賀県彦根市栗見出在家		●			●			かつては之軒の舟大工があり、大中の湖から土を運搬することで集落をつくったとのこと	39	広島県広島市西区草津本町	●			●				草津は漁業の町として栄え、廃船となった船板を家屋の外壁や塀に利用していた
14	滋賀県豊郷町		●			●			—	40	広島県広島市安佐北区可部	●				●			以前可部の町には、舟板を利用していた民家が多数存在していた
15	滋賀県東近江市五箇荘金堂地区	●	●		●	●	●	●	近江商人が財力を駆使して周辺集落から田舟を買い取り、その船材を建材に再利用	41	広島県広島市南区洋本町	●			●				—
16	滋賀県東近江市五箇荘川並町				●	●		●	近江商人の屋敷が建つ集落	42	広島県福山市鞆町	●		●		●	●	●	福山市にある旅館の中庭に舟板を使用した通路がある
17	滋賀県東近江市伊庭	●				●		●	水路利用の最盛期には集落内に水路網が張り巡らされ、そこを田舟が行き来していた	43	山口県防府市富海	●				●			—
18	滋賀県長浜市朝日町		●	●		●			一説では、船が水と開くため、防火の願いが込められて使用されているとの話もある	44	山口県阿武町奈古	●			●	●			—
19	奈良県五條市五條新町	●				●			—	45	香川県観音寺市伊吹島	●				●		●	現在は、船がFRPや金属製になったため、廃船の舟板の更新も途絶えた
20	奈良県大和郡市市新町	●				●			—	46	香川県高松市男木島	●			●	●			—
21	京都府伊根町伊根	●				●			—	47	香川県三豊市柿谷	●		●	●	●			—
22	大阪府柏原市今町	●				●	●	●	—	48	香川県三豊市栗島	●				●			—
23	大阪府柏原市		●		●			●	—	49	香川県三豊市志々島	●				●			—
24	大阪府柏原市本郷								—	50	香川県三豊市仁尾町	●				●			—
25	大阪府東大阪市中小坂				●	●		●	—	51	愛媛県大洲市臥龍山荘	●				●	●	●	—
26	大阪府東大阪市	●				●		●	—	52	徳島県美馬市脇町	●			●			●	藍染めなどに用いる染料の藍の集積地として采えてあり、舟運の盛んな土地

14ヶ所と最も多く、滋賀県が9ヶ所、香川県が6ヶ所と続き、西日本を中心とした分布が確認できた。

### 3.2 舟板建築の建築的特徴と自治体の認識状況

Table.2 に全国の舟板建築の概況を示す。まず、舟板建築の建物用途に着目すると、民家が32ヶ所、蔵が9ヶ所、塀が15ヶ所確認できた。また、舟板の使用部位に着目すると、外壁は20ヶ所、腰板・腰壁は22ヶ所、外塀は12ヶ所確認でき、内部空間ではなく建築物の外壁や化粧材として使用されている状況が窺えた。さらに、文化財等の指定状況に着目すると、重要な建造物群保存地区及び有形文化財がともに2ヶ所、指定文化財（県指定）及び登録文化財がともに1ヶ所確認でき、一部の事例では建築物として保存・保全対象として位置付けられている状況が確認できた。自治体の舟板建築の認識状況に着目すると、23ヶ所の自治体が舟板建築の存在を認識していた一方、建設経緯の把握や保全方針の検討等については必ずしも進められていない状況が窺えた。

### 4. おわりに

本稿では、舟板を活用した建築物である「舟板建築」の存在に着目し、全国の舟板建築52ヶ所を抽出した上で、西日本を中心とした分布状況や、民家を中心とした建物の外壁や外塀等、建築物の意匠性や街並みの景観性に寄与し得る舟板の使用状況を把握した。しかし、こうした舟板建築の詳細な調査は各自自治体で必ずしも行われておらず、今後、撤去・解体が進む中で舟板建築に関する悉皆調査が重要となると考える。今後は、文化財指定がなされている舟板建築や複数棟確認できた地域を中心に、地域の水文化との係わりや舟板建築の建築的特徴を整理していく。

### 5. 参考文献

[1] 森保洋之, 橋部好明, 菊川照正, 星出直也, 池田亜依: 「瀬戸内の島嶼集落のサステナビリティ・システムに関する研究」, 住総研研究論文集, 39巻, p. 177-188, 2013年.